

3テスラMRIが稼働開始しました

当院では、平成28年4月から待望の3テスラMRI（フィリップス社製 Ingenia）装置が稼働を始めました（図1）。これまでは静磁場強度1.5テスラのMRI装置1台で通常検査と脳血管系の救急検査を行ってききましたが、2台のMRI装置を稼働することで2

～3週間の予約待ちだった検査が比較的速やかに行なえるようになりました。また、救急患者への対応もスムーズに行なえるようになり救急体制の強化にも繋がりました。

更に、老朽化した1.5テスラMRIについてもアップグレードを行ない最新の装置に生まれ変わり、今まで高度な技術を要していた心臓の検査については、オート撮影機能が充実して技師の負担も軽減されました。

3テスラMRI装置の特徴としては、1.5テスラMRIに比べ2倍の信号が得られるので、短時間で検査が行なえます（図2）。更に信号が増加すると画質が著明に向上し、血管を選択的に抽出するMRAでは、1.5テスラよりさらにきれいで細い血管まで検出できるようになります（図3）。特に当院では脳血管系の検査が多いので、3テスラの機能を十分活かせる装置となっています。

また、今回の導入したMRI装置は患者さんが映像を見ながらリラックスして検査を受けられる最新の機能を備えており、患者さんにやさしい装置でもあります（図4）。

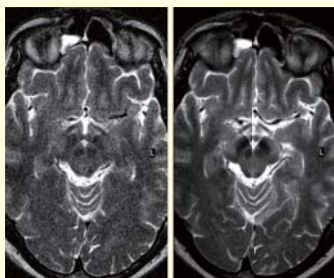
このように3テスラMRIは、1.5テスラMRIと比較して高解像度画像が得られるというメリットはありますが、静磁場強度の上昇に伴い心臓ペースメーカー、冠動脈ステント、強磁性体クリップ等の体内金属に対する安全面の注意が一段と必要となります。また、生体内における電磁波の組織吸収率が增大し、局所の温度が上昇するため撮影条件等の制限がかかるというデメリットもあります。

3テスラMRIの長所と短所を上手に使い分けながら診断価値の高い高精度な画像を提供していきたいと思っております。

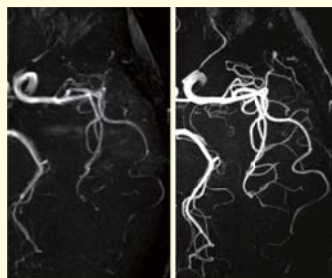
（文責：診療放射線技師長 本村 登）



（図1）3テスラMRI装置



1.5テスラ 3.0テスラ
（図2）信号強さの比較



1.5テスラ 3.0テスラ
（図3）血管描出能の比較



（図4）検査中の映像

幹部就任のご挨拶

副院長就任のご挨拶

森山 由紀則



この度副院長とともに、医療安全管理室長の職を拝命しました。心臓外科の診療に加えて病院の公的な部分を担うことになり、改めてその職責を重く受け止めています。院内には重要な会議、委員会が数多く設置されていますが、私は元々が不器用なため八面六臂な活躍などとてもできません。その点、病院のシステムを熟知された中島先生が統括診療部長に就任されたので、二人で協力して花田先生を支え当院の発展に努めていく所存です。

ところで、平成28年度の診療報酬の改定が行われました。今回の改定も含めた一連の医療改革は、地域の実情にあった医療提供体制の実現に向けたものですが、今後7対1入院基本料を維持出来ずに10対1を分割導入せざるを得ないようでは、急性期病院としての評価はかなり厳しくなると考えられます。DPCの第Ⅲ期日までの長期の入院を減らしていくことも重要な問題です。その他競合する施設が増える中での救急医療、地域医療連携、がん診療、認知症対策など体制を整備していく上での課題はまだ多く残っています。全診療科を挙げて職域を超えて取り組まなければならないと考えます。

医療安全も急性期医療を標榜する限り避けては通れない問題です。医療の質を保証するためには、研修体制の充実を図ることは言うまでもありませんが、それ以上に各々職員が自分の職責を自覚することがより重要です。昨年度、日本医療機能評価機構へ報告された医療事故は3654件で、報告を義務づけられている大学病院と国立病院機構からの報告が大半ではありましたが、内2割弱を死亡事例と後遺障害を残す可能性の高い事例が占めていました。高度の医療を担う施設ではそれなりのリスクが伴うということだと理解していますが、それにしても発生率をもっと抑えられるべきです。私たち医療に携わるものには単なるサービス業を超えた資質が求められます。高い技術力、それを支える倫理観、そして現場での判断力、思考力は重要な要素と考えます。自分の行為の結果を想像することのできる能力を高めていけば医療安全は改善できるはずですが、しかし、どんなに患者の人権を尊重し医療過誤を回避する努力を続けても検査、治療による副作用や合併症を完全に防止することは困難です。困難ではありますが、それでも我々のやるべきことは、医療安全を順守して医療の質を高め、より一層患者さんとの信頼関係を築いていく以外にありません。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。一步一步着実に前進していきましょう。

診療統括部長就任のご挨拶

中島 均



この度、国立病院機構理事長発令により、4月1日付で統括診療部長を拝命致しました。

過去の統括診療部長は、脳神経外科の今村純一先生、心臓血管外科の森山由紀則先生らが歴任されており、診療部のまとめ役として貴禄十分でありましたが、私はまだまだ力不足ではないかと思っております。このような私ではございますが、当院在籍24年という経験を生かして鹿児島県内の先生方と連携し、特に救急患者の受け入れに力を注いで参りたいと思っております。循環器疾

患の取り組みとして本年6月には脳卒中・心臓病救急センター（原稿執筆時は仮称）を開設し、地域の要望に応えられるよう病院全体として取り組んで参る所存です。また高齢者のニーズに応えるべく、低侵襲の治療にも取り組んでおります。胸部や腹部動脈瘤の治療としてステントグラフト内挿術は平成21年より開始しており、約7年が経過しております。

また3月に開催した市民公開講座で取り上げた経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）は来年開始予定です。

癌系においても昨年より皮膚腫瘍科が開設され、ますますパワーアップしております。

甚だ微力ではございますが、今後も地域医療を支えるべく花田修一院長、森山由紀則副院長共々努力して参る所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校

入学式

4月8日、私たち85名は人々の健康に貢献できる看護職者になりたいというそれぞれの目標を胸に入学式を迎えました。多くの方々のご臨席を賜りまして、盛大に式を挙げて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、入学式で先輩が歓迎の言葉の中で語られた実習での体験談をお話して下さったことがとても印象に残っています。看護の対象となる人々には、同じ人は一人として存在しません。患者さんに対してどのように接するべきか、またどのような援助が必要であるのか、それは患者さんの状況によって異なります。そのため、患者さん一人一人に適切な看護を提供し、心身共に患者さんの健康を守っていくことは容易なことではないと思います。しかし、その中で得た多くの経験や、患者さんからの感謝の言葉は、きっと、かけがえのないものとなるに違いありません。私も日々の講義や実習を通して、看護に必要な知識と技術を身に付け、患者さんに寄り添い、しっかりと支えていくことができるような思いやりと高い看護実践能力をもった看護師を目指し、一日一日を大切にしながら頑張っていきたいです。

入学式を終え、数日が経ちました。オリエンテーションでは、本校の規則やカリキュラム、マナー等について教えて頂き、看護学生としての自覚と責任を改めて感じました。それと同時に、ここで過ごす学生生活のことを思い描いて胸が高鳴りました。また、新入生セミナーでは、さまざまなレクリエーションを通して仲間を知り、より絆を深めることができました。これからの学生生活をこの仲間と切磋琢磨していきたいです。

この3年間、看護学生としての本分を全うし、自信と誇りを持って、看護師として心身共に成長していこうと思います。

（文責：平成28年度入学生 福元 慈子）



新任紹介



脳血管内科
大山 賢

4月1日より鹿児島医療センターに赴任することとなりました。脳血管内科の大山賢と申します。3月までは、神経内科一般、回復期リハビリテーション病棟のある病院での職務に従事しておりました。鹿児島医療センターで働くのは6年ぶりで、コメディカルスタッフの中には、以前一緒に働いたことがある人もおり、懐かしい気持ちで仕事をしております。先日、あるコメディカルスタッフに白髪があることを指摘され、年を重ねてしまったことを痛感しております。皆様には色々とお世話になることと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



第二循環器内科
馬場 善政

4月より鹿児島医療センターで勤務することになりました第2循環器科の馬場善政と申します。前任は指宿医療センターで今回、3年ぶりに鹿児島医療センターに戻ってきました。まだまだ慣れない点も多く至らぬ点多々あると思いますが、医療センターの一員として少しでも病院に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。前回赴任時より、15kg程度ダイエットに成功しており、体重維持、健康維持もしていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



第一循環器内科・レジデント
有村 俊博

4月より鹿児島医療センターへ赴任することになりました、循環器内科の有村俊博と申します。初期研修終了後鹿児島大学心臓血管・高血圧内科へ入局し、1年間大学で勉強しました。大学での症例と市中病院での症例はまた異なると思いますが、日々勉強し少しでも患者さんのための医療を提供できるよう精進していく所存です。ご迷惑をかけることも多々あると思いますが一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。



脳血管内科・レジデント
平嶺 敬人

4月から鹿児島医療センターの脳血管内科で働くことになりました平嶺敬人です。出身は鹿児島で高知大学を卒業し、鹿児島大学の神経内科に入局しました。鹿児島医療センターの脳血管内科で脳卒中の勉強ができることを楽しみにしていました。できるだけたくさん症例にあたり、血管内治療も経験できたらと考えています。お世話になることがたくさんあると思いますが、よろしくお願い致します。



泌尿器科
千代丸 剛

4月から9年ぶりに泌尿器科で勤務させていただきますことになりました。これまで鹿児島大学泌尿器科や米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校で泌尿器科癌とマイクロRNAの研究に従事してまいりました。昨年より臨床の現場に戻り、日々泌尿器科癌や腎不全、排尿障害の診療を行っております。患者さまの目線に立ち、親切丁寧な診療を行うよう心がけていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。



脳血管内科
金子 浩之

2016年4月より鹿児島医療センターに赴任することとなりました、脳血管内科の金子浩之と申します。鹿児島県鹿児島市出身で埼玉医科大学を卒業後、東京医科大学病院で研修し、2014年に鹿児島大学病院神経内科に入局しました。昨年は鹿児島市医師会病院に勤務しておりました。これまででは一般神経救急を主に診ていたのですが、本年度より脳卒中に携われることになり勉強する機会に恵まれているなあと身が引き締まる思いです。少しでもお役に立てるように日々精進していきたいと思います。多々ご迷惑をおかけするかと思いますが、ご指導・ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。



歯科口腔外科
田中 荘子

今年度より、鹿児島医療センター歯科口腔外科に赴任致しました、歯科医師の田中荘子と申します。鹿児島大学の口腔顎顔面外科より、出向という形でやって参りました。臨床経験はまだ少ないですがその中でも病院歯科は初であり、大学病院とも一般歯科医院ともやや異なる診療体系に少々戸惑うこともあります。痛い時だけ行く歯医者さんのイメージではなく、歯科の重要性をもっと伝えていけるように頑張りたいと考えております。また、もし歯に関する事で何かお困りの方でも、どうぞご一報ください。一所懸命つとめて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



外科・レジデント
安村 拓人

こんにちは。外科レジデントの安村拓人と申します。今春、鹿児島大学心臓血管・消化器外科学教室(旧第二外科)に後期研修医として入局し、当院で外科研修をさせていただくことになりました。初期研修医時代は、桜島プログラムの中で9カ月間を当院で研修させていただき、多くの先生方、スタッフの方々には大変お世話になりました。卒業後3年目の今年も馴染みのある施設で働くことができ、大変うれしく思っています。勉強不足な面も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・谷口・田上・吉永・吉留・菊永・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

